

# きょうと福祉倶楽部だより

2022年 7号

「きょうと福祉倶楽部だより第6号」の、介護用リフトの紹介を読んで、数年前からリフトを導入している利用者さん家族のYさんからリフトに関して日々思っていることをお寄せいただきました。ご紹介させていただきます。

数年前に福祉倶楽部さんの勧めもあってリフトを導入しました。要介護5になり、車椅子での生活になってしまいましたが、自分で足を突っ張ることができていたので、車椅子⇄ベッドの移乗は抱えることで比較的楽にできていました。お世話になっているヘルパーさんも一人で対応されていたと思います。ところが足の突っ張りが出来なくなると全体重を持ち上げて移乗させることが必要となり、負担が大きくなりました。また移乗時の安全も懸念されるようになりました。そこでリフトの導入となりました。「まだまだ出来る」、「介護保険単位数の増加が厳しい」など導入に対する否定的な考えもありましたが、導入してみると移乗時の負担が大きく軽減され、導入して良かったと思いました。

ここまではあくまでも「介護をする側」からの視点だったのですが、最近思うようになったのは「介護される側が楽なのではないか」と言うことです。ペットボトルの箱(2L×6本で約12kg)には「片手で持つと箱が破れます」と注意書きがあります。12kgでも段ボールが破れるのであれば、数10kgの身体を両手で持ち上げられたら、その部分には相当の圧力がかかっていると思います。

また、車椅子にもうまく座らせてもらえないことが時々発生します。その点、リフトではスリングシートで包むように持ち上げられ、ゆっくりと車椅子に下ろされ、その際に傾きを調整すればまっすぐに座ることが出来ます。

これに関連して、移乗の際にズボンを持つことが、施設でも病院でも普通に行われています。

上にも書いたように移乗時には全体重がかかりますが、ズボンを持つと股の部分にその体重分がかかります。

ズボンを持って持ち上げられた感覚を考えるととても気持ちの良いものではありません。

介助される人は、いつもこの感覚を味わっていると思うと申し訳ないと思います。

また、そうやって移乗するとズボンが上の方に上がってしまい、足首が露出した状態になります。

できるだけ股下の長いズボンを履かしているのですが、ショートステイ中やデイサービスからの帰りには

いつも足首が露出した状態になっています。

リフトを導入すれば上記のようなことも改善されます。

リフトには移動式のタイプもあります。

施設や病院のスペース、移乗にかかる時間、

導入費用など解決しないといけない課題はありますが、

「介護される側の人」のことを第一に考えると、

答えも違ってくるのでは無いかと思います。

新型コロナウイルス感染拡大に伴う  
利用者みなさんへのご願い

●サービス利用中は可能な限りサービスご利用の方もマスクの着用をお願いします。

●利用者、同居の家族のかたの体調不良(発熱など)はあらかじめきょうと福祉倶楽部までご連絡ください。



おねがい

有限会社 おとくに福祉研究所  
きょうと福祉倶楽部

〒617-0824  
長岡京市天神4丁目7-12 ハイッ楽舎101号  
TEL 075-958-2560 FAX 075-957-2808  
E-mail info@fukushi-club.com